

# ピンクリボンNEWS

2019年度  
冬号  
Vol.8 No.4

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

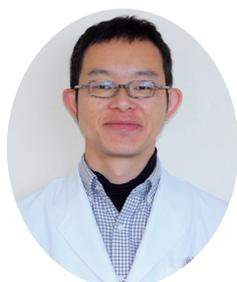
発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

**J.POSH**  
日本乳がんピンクリボン運動®

## TOPICS

### 乳房再建術の現状 と今後の展望

大阪医科大学 形成外科学教室



講師 大槻 祐喜



教授 上田 晃一(共著)

2013年7月にシリコンプレストインプラント(SBI)を用いた人工乳房による再建術が保険適用となり、乳癌術後に対する再建手術そのものの認知度や意義が一般社会にも徐々に広がってきたのではないかと感じます。

乳房再建術は大きく分けると自家組織移植による再建術(自分の体の組織を失われた乳房に移植する手術)と、前述の人工乳房による再建術の2種類が現在保険適応となっています。自家組織による乳房再建術は2013年7月以前からも保険手術により行われており、自分の体の組織を移植して乳房を作るため、軟らかい自然な形態の乳房を再建しやすいというメリットがあります。しかしマンパワーや長時間手術の問題もあり、積極的に行える施設は限られていました。人工乳房による乳房再建術は、通常はまず組織拡張器(TE)を大胸筋の下に留置し乳房の皮膚と大胸筋を伸展させ

た後に二期的にSBIに入れ替える方法で、自家組織と比較すると手術が短時間で終了でき、またドナー部に新たに傷痕を作らないため自家組織再建による乳房再建には自信が持てなかった患者様の受け皿となりました。

しかしながら2019年7月24日Food and Drug administration (FDA) はプレストインプラント関連未分化大細胞性リンパ腫(BIA-ALCL)及びBIA-ALCLに関連する死亡例の世界的症例を報告したglobal safety informationに基づき、Allergan社のテクスチャードタイプのSBI及びTEの市場からの自主回収を要請しました。日本国内では乳癌に対する人工乳房による再建術はAllergan社のTE及びSBIのみが保険治療として使用可能であったこともあり大きな問題となりました。

BIA-ALCLという病気の概念は新しく、医師の中でもまだ理解が浸透していない部分もあります。本疾患はAllergan社製のマクロテクチャードと呼ばれるタイプのSBIや、表面がポリウレタン加工されたSBI周囲の被膜に発症するリンパ球の悪性腫瘍と表現することができます。日本乳房オンコプラステックサージャリー学会の年次報告によると、保険治療開始から2018年までに29488件のSBIが留置されているとのこと。しかし豊胸などの自費診療での症例数は含まれておらず、正確な件数の把握は難しい状況と考えられます。日本国内ではBIA-ALCLは2019年10月時点で1例確認されており、全世界的にはFDAは2019年8月の時点で573例の発症が疑われ、死亡例が33例あったと公表しています。BIA-ALCLの発症率に関しては各国でその数値はばらつきがあり、アメリカで約1/30,000、オーストラリア及びニュージーランドで約1/1,000 - 1/10,000となっています。

FDAが発表している内容では、既に留置されているSBIに関しては無症状の状態積極的に除去することは勧めておらず、今後も定期的なSBIに対する経過観察が必要となります。

また発症した後の診断と治療の理解も求められています。BIA-ALCLの症状として、約8割の患者様に遅発性漿液腫(インプラント周囲に液体の貯留がみられるとのこと)が認められ、その自覚症状としては再建乳房の張りや増大が挙げられます。また腫瘍や硬結、潰瘍として自覚される場合もあるようです。BIA-ALCLは再建直後に発症する合併症ではなく数年以上(平均9年)経過してから発症することが多いといわれています。BIA-ALCLが疑われれば、貯留した液や腫瘍を採取し、検査に提出することとなります。治療はステージI(腫瘍がSBI周囲の被膜内にとどまるもの)では腫瘍が完全切除できれば、再発は少なく治癒が期待できます。一方完全切除できなかった場合やステージII以上では、化学療法や放射線治療が必要になり、この場合の予後は進行度に応じて不良となります。全ステージを含めた5年生存率は91%と報告されています。発症する可能性は比較的低い疾患ではありますが、患者様・医師ともに情報を整理

し冷静に対処していくことが重要となります。

またSBIが自主回収となった時点で既にTEが一度目の手術で留置されている患者様もおられます。既にSBIに入れ替える手術が予定されていた患者様も中止を余儀なくされました。中には自家組織による乳房再建に切り替えられる方もおられました。また新しいSBIが認可されるまで待ちたいと手術を延期されている患者様もおられます。今後状況が改善され、安心した治療を提供できることが望まれます。本稿執筆中の2019年11月5日の時点では、10月18日より旧型のスムーズタイプラウンド型のSBIであるClassicシリーズが再販売されました。また11月26日からは旧型のClassicシリーズよりゲル充填率の高いInspiraシリーズが限定的に受注開始予定となり、さらに乳房再建用TEも11月8日より限定的に受注開始となりました(共に2020年1月27日から通常の受注を開始予定)。状況は徐々に改善してきておりますが、今後もこのような事態に備えるべくスムーズタイプやマイクロテクスチャードタイプ(マクロテクスチャードよりは表面のざらざらが細かいタイプ)を含めた複数のメーカーのTEやSBIの認可が望まれるところです。

## 福岡和白総合健診クリニック 《寄稿》



社会医療法人財団 池友会  
福岡和白総合健診クリニック  
院長 山永 義之

社会医療法人財団 池友会 福岡和白総合健診クリニックは、2005年4月に人間ドック、PETドック、特定健診、企業健診等をはじめとする予防医学のための専門施設として開設いたしました。おかげさまで、福岡県内はもとより福岡県を除く九州各県、四国、関西地方、関東地方と年間約50,000人の

お客様にご利用していただける施設となりました。

私ども福岡和白総合健診クリニックは「笑顔と真心でより質の高い総合健診をめざす」を基本理念としています。「笑顔と真心」検査を受けるのは、健康な方でも一抹の不安をもつものです。お客様の検査への不安を軽くするために笑顔と真心を大切にしています。

現在日本では、死亡率減少を目的とした対策型検診(市町村が行う住民検診が該当)と当クリニックでもご用意している各種多様な人間ドックコースを受診する任意型検診がありますが、検診は予防医療であり、「より質の高い検診」は、精度の高い検査判定がなくてはなりません。そのためには、高度医療機器の利用、画像判定などの資格取得し

た専門医の配置を行いがんの早期発見を行うことで、早期治療へとつながるようにと考えています。

平成29年(平成29年1月1日～平成29年12月31日)の当クリニックのがん発見報告となりますが、総受診者数50,438名の内 がん発見者は159名です。がん発見総数部位別で見ますと上部消化管46件、下部消化管28件、肺9件、乳房41件、甲状腺11件、前立腺9件、子宮7件、膀胱3件、腎臓5件、膵臓1件、転移がん2件、その他2件の総数164件となります。※がん発見の検査内訳で見ますとマンモグラフィ検査、超音波検査、CT、PET検査、内視鏡となります。

乳がんに限らずでは、罹患率では胃がんを抜いて第一位となり増え続け、日本人女性の11人に1人が乳がんにかかるといわれています。また、亡くなる方も年々増加し、女性の壮年層(30～64歳)のがん死亡原因の一位はやはり乳がんです。

乳がんの対策型検診は、40歳以上で2年に1回マンモグラフィ検査が推奨されていますが、自らドックを受診される方には、年齢等から判断し、マンモグラフィ検査のみならず乳腺超音波検査や双方を組み合わせた検査もお勧めします。それぞれ、検査方法で得意な点や不得意な点がありますので、

うまく組み合わせることで早期発見に努める必要があると考えるからです。

先程述べましたとおり11人に1人の日本女性が乳がんにかかるといわれていますが、受診率はまだまだ低いというのが現状であり、平成25年の全国平均乳がん検診受診率は25%なのです。(厚生労働省H25年度地域保健・健康増進事業報告の概況より)欧米では受診率の向上と共に死亡率減少を達成しており、受診することはとても大切なことです。すでに、令和にはいりましたが、乳がん検査の受診率の大きな変化はありません。対象女性に乳がん検診を受けない理由を聞くと、「受診機会がないから」「職場の健診項目にないから」という声が聞かれます。私たち福岡和白総合健診クリニックでは、土曜日にも検診が受診できますし、人間ドック、職場検診によるマンモグラフィ検診以外にもピンクリボン運動として乳がん検診啓発団体と各所でマンモグラフィ検診の実施や乳がん検診の重要性をわかっていただくための啓発活動への取り組み等を行っております。

これを機に是非、女性の皆様には「恥ずかしい」「痛い」「何かあると怖い」と思わずにご自身、あるいはご家族のためにも受診をお勧めいたします。

### 対策型がん検診と任意型がん検診の比較

検診分類	対策型がん検診(住民検診型) Population-based screening	任意型がん検診(人間ドック型) Opportunistic screening
基本条件	当該がんの死亡率を下げることを目的として、公共政策として行うがん検診	対策型がん検診以外のもの
検診対象者	検診対象として特定された集団構成員の全員(一定の年齢範囲の住民など) ただし、無症状であること。症状があり、診療の対象となる者は該当しない	定義されない。ただし、無症状であること。症状があり、診療の対象となる者は該当しない
検診方法	当該がんの死亡率減少効果が確立している方法を実施する	当該がんの死亡率減少効果が確立している方法が選択されることが望ましい
利益と不利益	利益と不利益のバランスを考慮する。利益が不利益を上回り、不利益を最小化する	検診提供者が適切な情報を提供したうえで、個人のレベルで判断する
具体例	健康増進事業による市区町村の住民対象のがん検診(特定の検診施設や検診車による集団方式と、検診実施主体が認定した個別の医療機関で実施する個別方式がある)	検診機関や医療機関で行う人間ドックや総合健診保険者が福利厚生を目的として提供する人間ドック

出典元：独立行政法人国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 乳がん検診ガイドライン2013年度版より

## ピ ンクリボン T s u r u o k a 啓発とカウンセリング両立

### 「がんを意識しない人々にこそ啓発を」

山形県庄内地方の拠点都市・鶴岡市で『ピンクリボンTsuruoka』を立ち上げ、乳がん啓発活動を展開しているのは瀬尾美穂さん(46)。瀬尾さんは地元高校を卒業後、地元金融機関に就職。順調な社会人生活を送っておられました。が、28歳の時に子宮がんに罹患。完治したものの32歳で乳がんを発症し左胸全摘手術、抗がん剤治療などを経験されました。二つのがん、とりわけ乳がんとの闘いで学んだことは①乳がんは自己触診で直感できる②がん患者同士は『がんについて』お互いに理解し合えるが、そうでない人たちは、がんに関心である——という事実でした。

こうしたことから「まったくがんを意識しない人々にがんの啓発をしなくては」と思い立ち、2015年2月、『ピンクリボンTsuruoka』を立ち上げました。メンバーは看護師や“ママ友”など10人。患者会やピンクリボン団体のメンバーの多くががん経験者・サバイバーで構成されているケースが少なくないが、瀬尾さんは「当会のメン



乳がん啓発とカウンセリングに取り組む瀬尾さん(鶴岡市内で)

バーの中で乳がん経験者は私一人。それだけに非経験者の皆さんが啓発運動に協力してくれることが有難いです」と。

同会は、瀬尾さん自身の経験を踏まえた講演会、勉強会の開催、啓発ポスターの掲示活動、啓発グッズ販売などを実施している。中でも、毎年10月のピンクリボン啓発月間に、地元鶴岡市内の歴史的建造物である大寶館や国宝羽黒山五重塔をピンク色に照らすライトアップは地元で知れ渡り、乳がん啓発の大きなイベントとして定着しています。五重塔のライトアップは、地元の観光協会の後援も得ているといいます。



ピンク色に染まった国宝羽黒山五重塔と仲間たち

### 「カウンセリング会社で心の悩み相談」

瀬尾さんはピンクリボン団体立ち上げと同時期に、合同会社「Heart & Heart」社を設立。この会社は、心理セラピスト、チャイルドカウンセラー、家族療法カウンセラーなどの資格を持つ瀬尾さんが病気の悩み、いじめの悩みなど、心の悩みを持つ人々のカウンセリングを行っています。がん患者の相談は無料ということです。

ダウン症の子供さんを含め、4人の子供の母親でもある瀬尾さん。19年6月、同い年で最愛の理解者・協力者であった夫・彰氏をがんで亡くされました。悲しみにめげることなく、乳がん啓発とカウンセリングに意欲的に取り組んでいらっしゃいます。

## やまがたピンクリボン運動実行委員会 毎年のフェスタ盛況

### 「医師・看護師・患者会など37人で運営」

「やまがたピンクリボン運動実行委員会」は、ある一人の乳がんサバイバーのピンクリボン運動に対する熱意に心を動かされた県立中央病院乳腺外科の工藤俊医師が、同じ思いを持つ関係者に呼びかけて2006年11月に立ち上げました。山形大学医学部附属病院の乳腺・甲状腺疾患専門の木村青史医師(現天童市民病院院長)を始め、看護師、放射線技師、薬剤師などの医療関係者、教員、患者会、主婦など計37人が実行委員に名を連ねています。

事務局は天童市民病院院内で、木村院長が事務局長。患者会の佐藤とも子さんが実行委員長を務め、「発見の遅れで命を落とす事がないよう、救える命は救いたい」をスローガンに掲げ、乳がん検診と自己検診の大切さを訴える啓発活動を進めています。

同会の活動の大きなイベントは、毎年10月に開催する「山形ピンクリボンフェスタ」。07年から毎年開催しており、13回目の19年は19日(土)～20日(日)の2日間にわたり山形市内の山形ビッグウイングで開催されました。展示ブースには乳がん触診モデルを置き、大勢の入場者が体験しました。同実行委員会のメンバーでもある6人の乳線専門医師による無料相談コーナーな



ピンクリボン資料を配布(山形ピンクリボンフェスタで)



左から木村さん、佐藤さん、工藤明美さん(天童市民病院で)

ども開設。医師の丁寧な対応に、「相談者の不安は安心に変わりました。今年は、より親しみ易く乳がんの事を知ってもらうために来場者参加型の『乳がんクイズ あなたならどっち?』をメインとしました。寸劇でクイズの問題を提示した後に解説を行い、十分な啓発効果を感じました」。また、この2日間、山形市内の「文翔館」や上山市内の「上山城」、米沢市内の「山形大学工学部旧本館」がピンク色にライトアップされ、乳がん検診の促進をアピールされました。

### 「天童市民病院(事務局)は月2回『イブニング乳がん検診』実施」

委員長の佐藤さんは「乳がん啓発は多くの情報を提供することが最も大事だと思います。」と。木村事務局長は「これまで乳がんの画像診断と手術療法、薬物療法を中心に行ってきましたが、一方で予防医学の大切さを実感しています。がん生活習慣病を中心に予防や異常の早期発見を目指した検診が重要な柱になるでしょう」と話していらっしゃいました。

天童市民病院は「働く女性が検診を受けやすいように」と、毎月、第2、第4火曜日の夜間に『イブニング乳がん検診』を実施されています。

# ピンクリボン活動紹介

## 各地の啓発活動



川越市の最明寺(10月27日)本堂のライトアップ、チャリティコンサート、ヨガ、座禅などと共に、今年初めて提供されたフレンチ風の精進料理が人気を集めた。



石巻市の「NPO法人パセリの会」(9月28日)石巻赤十字病院の健康まつりにブースを出展。



大阪府レディースハートシントン連盟(10月9日)大会の受付に設けられたピンクリボンコーナーには外国人の姿も。

釧路市の「道東乳がん患者会シャイニービーチ」(10月1日)きれいな夕陽が見える橋「幣舞橋」で、ティッシュ配りを終えピンクに染まった橋をバックに記念撮影。



ひたちなか市の「乳がん仲間の小さなおしゃべり会momo」(10月27日)ピンクリボンウォークinひたちなかを実施。



▲ 尼崎市の「尼崎市女性センター トレビエ」(10月9日～30日)ギャラリー展。



▲ 美濃市の市立美濃病院「美濃健康フェア2019」  
(11月9日～10日)啓発ティッシュ2000個配布など。



▲ 岩手県大船渡保健所。大船渡地区合同庁舎内に  
ブースを設け、乳がん月間をアピール。



▲ 10月26日、さいたま市大宮区の鐘塚公園で「第7回ピンクリボン  
ライトアップ点灯式」開催。会場には触診体験ブースも。



▲ 10月20日、船橋市内で、K-sisters (ユニット名)の  
メンバーである横洲かおるさんが歌のステージを行い、  
その際啓発ティッシュを配布。

企業・団体・障がい者支援事業所、計 18 チーム参加



佐世保市の「第5回SASEBOピンクリボン祭り」(10月14日)  
風船バレーボール大会には18チーム180人が参加。



今年も障がい者支援事業所が優勝



高知大丸  
北口にて  
2019年10月6日

▲ 高知市の「乳がん術後者の会・いぶき会」(10月6日)  
高知大丸北口で乳がん啓発活動。

## 事務局からのお知らせ

# ピンクリボン啓発活動助成金 40団体に拡大



2018年度から開始した

「ピンクリボン啓発活動助成金」を2020年度も引き続き実施します。助成対象は「設立1年以上経過したピンクリボン啓発団体、患者会」です。企業内の活動や個人の方の応募はお断りしております。

全国各地でピンクリボン活動を展開しているらっしゃる皆様に、少額ではありますが資金を提供させていただくことで地域にピンクリボン運動が定着することを願っています。

『1団体一律5万円支給』は変わりませんが、20年度は前年度より10団体増やして40団体に支給します。

## — 概要 —

### 支給内容

1団体一律5万円、およそ40団体に支給

### 応募資格

設立後1年以上経過した非営利のピンクリボン啓発団体・患者会  
※ 企業及び個人の応募は出来ません  
※ 2020年6月より2021年5月末日の間に、啓発活動を実施予定であること。

### 選考方法・スケジュール

応募者の中から、J.POSHピンクリボン啓発活動助成金選考委員会にて審査による選考を行います。

1 選考 2020年 6月中旬	→	2 選考結果 2020年 7月初旬 <sup>※1</sup>	→	3 助成金支給 2020年 7月下旬 <sup>※2</sup>
-----------------------	---	---------------------------------------	---	--

※1 支給が決定しました団体様にのみ通知致します。 ※2 ご指定口座への振込

### 応募期間

[受付開始] 2020年2月1日 [応募締切] 2020年5月31日(書類必着)  
※(昨年と日程が変わっています)

### 応募方法

所定の申請書(裏面もしくはJ.POSHホームページ(<http://www.j-posh.com>)からダウンロードして下さい)に必要事項をご記入の上、郵送・メール(PDF)・FAXにてお申し込み下さい。

### 結果発表

選考結果はJ.POSHホームページに掲載します。(7月初旬頃)

### 実績報告

活動後、簡単な報告書(データによる写真を含む)を提出して頂きます。活動や団体様をJ.POSHが発行する媒体にてご紹介させて頂く場合がございます。

### 提出先・お問合せ先

〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 認定NPO法人 J.POSH  
TEL:06-6962-5071 FAX:06-6962-0065 E-mail [info@j-posh.com](mailto:info@j-posh.com)

## ピンクリボンNEWSあとがき

ピンクリボン月間の10月は全国各地で様々な催しが開かれ、乳がん啓発活動が盛り上がる季節です。活動に関わる皆さんから、催しの風景や有名な建造物のライトアップなどたくさんの写真が送られてくるシーズンでもあります。J.P.O

SHの個人サポーターとして長年ピンクリボン活動にご尽力されている東広島市在住の政光正枝さん(写真)から、こんなお便りを頂きました。

「23万人の人出で賑わった東広島市の『酒まつり』(毎年10月、JR西条駅南側一帯で開催。1,000銘柄を超える日本酒を目当てに、大勢の観光客でにぎわう)で、J. POSHさんから送って頂いた『他人事だと思いませんか』などと記されたポスターを貼り、送って頂いたたくさんのティッシュを配ったり、募金をお願いしたりとボランティア活動をしました。乳房の触診モデルに



触れ「えー、これがしこり」と驚く若い女性、成人女性でありながら『しこりって何?』という反応には驚かされました。もっともっと啓発を続けなくてはと実感しました」と。

政光さんは09年夏、愛娘の次女・香さんを乳がんで亡くされました。8年間の闘病の末39歳の若さで他界された香さんが、母親の正枝さんに病床で遺した言葉は『乳がんで悲しむ人を一人でも少なくして』だったといいます。この言葉を娘の遺言と受け止めた政光さんは、J. POSHの個人サポーターとしてひたむきに活動を続けていらっやいます。(ピンクリボンNEWS2016年秋号記事掲載)。お手紙は最後に「もう高齢ですのでなかなか活動が出来ませんが、娘の後押しでもう少し頑張っていけたらと思っております」と、結んでおられます。(T. I)